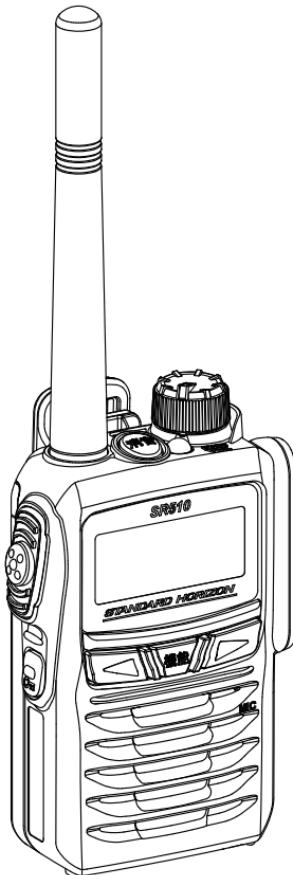


**STANDARD HORIZON**

携帯型デジタルトランシーバー

**SR510**



*Digital*

【資格不要】

デジタル 30 チャンネル

3R 登録局

## 取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございました。  
正しくお使いいただくために、この取扱説明書を  
よくお読みください。  
お読みになった後は、大切に保管してください。

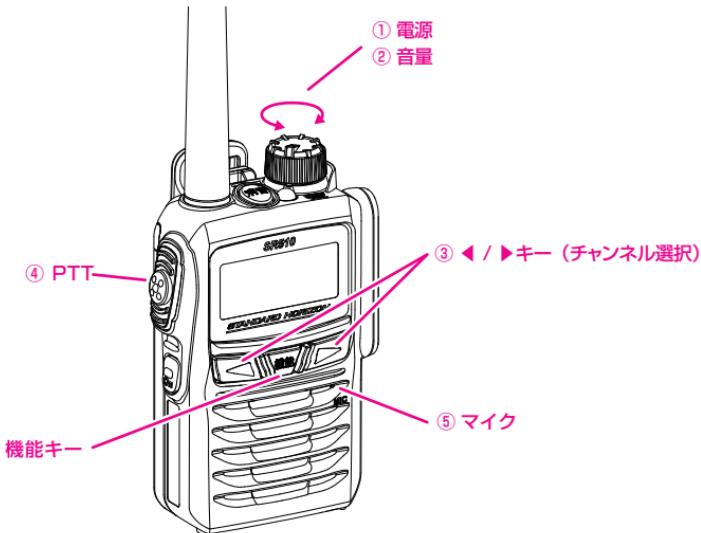
このトランシーバーは国内専用モデルです。  
海外では使用できません。

# 目 次

クイックガイド	1
はじめに	2
安全上のご注意 ～必ずお読みください～	3
正しくご使用いただくために	4
防水性能について	4
電波干渉について	4
通信方式に関して	5
デジタル簡易無線局について	5
チャンネル構成とコールチャンネル	5
付属品	6
オプション	6
各部の名前と機能	7
準備	11
アンテナの取り付け	11
ベルトクリップの取り付け	11
電池パックの取り付け / 取り外し	12
リチウムイオン電池パックを取り付ける	12
リチウムイオン電池パックを取り外す	12
リチウムイオン電池パックの充電方法	13
電池パックを取り付けた状態で充電する方法	13
電池パック単体で充電する方法	13
アルカリ乾電池ケースの使い方	14
基本的な使い方	15
キーロック機能	16
通信方式について	16
設定のリセットについて	16
UC (ユーザーコード) 通信	17
UC (ユーザーコード) 通信の設定方法	18
個別通信	19
個別通信の設定方法	20
個別通信の呼び出し方法の設定	21
呼び出しを受けたとき	24
簡易メニュー	25
通信時に動作する機能について	26
キャリアセンス機能	26
通話中の「ビビビ」音（連続送信時間制限）	26
ヒートプロテクション（高温時の保護機能）	26
各種の便利な機能	27
オートチャンネルモード	27
送信出力設定	29
ミュート（消音機能）	29
秘話通信機能	30
通信の設定機能 ～セットモード～	31
オプションの取り付け	41
故障かなと？と思う前に	42
定格	43
索引	44

# クイックガイド

- ① 電源を入れます。  
充電した電池パックを取り付けて、[PWR/VOL] ツマミを右にまわします。
- ② 音量を調節します。  
[PWR/VOL] ツマミを 10 時から 11 時の位置にあわせておきます。その後、相手の音声が聞き取りやすい音量になるように調節します。
- ③ チャンネルをあわせます。  
[◀] または [▶] キーを押して、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。
- ④ 送信(通話)します。  
PTT(通話)ボタンを押しながら、⑤マイクに向かって話します。  
PTT(通話)ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。



## 機能キー

### ● 個別通信の呼び出し方法の選択

[機能] キー押してから [◀] または [▶] キーを押して、個別通信の呼び出し方法を選択できます。

個別呼び出し： 特定の相手を呼び出します

グループ呼び出し： 同じグループの全員を呼び出します

一斉呼び出し： グループに関係なく全員を一斉に呼び出します

### ● 簡易メニューの呼び出し

[機能] キーを長押しすると簡易メニュー（25 ページ参照）が表示され、以下の設定ができます。

- ・ユーザーコードの設定
- ・秘話機能の ON/OFF
- ・秘話コードの設定
- ・個別通信の宛先 ID の設定
- ・個別通信の自局 ID の表示
- ・送信出力の設定

# はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。

本機をご使用になる前に、別紙「登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

## ! 注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

### ● ご利用にあたって

- 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易無線機（種別コード「3RJ」）との互換性を確保しています。ARIB規格以外の機能の互換性はありません。
- 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

### ● 免責事項

- 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

### ● アフターサービス

- 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店にご相談ください。

製品に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社国内営業部までお願いします。

**八重洲無線株式会社**

国内営業部

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

TEL: 03-6711-4055

## 安全上のご注意 ~必ずお読みください~

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

### !**危険**

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

### !**警告**

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています

### !**注意**

誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています

### !

行つてはならない禁止事項です（例  分解禁止）。

### !

必ず守っていただきたい注意事項です。

## !**危険**

-  **自動車を運転しながら交信や操作をしない**  
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。  
運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてからご使用ください。
-  **航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る**  
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。
-  **引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない**  
発火事故や落下事故などの原因になります。
-  **電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険**  
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者の診断を受けてください。

 電源端子や電池パックの端子にはんだ付けやショートをしない  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

 リチウムイオン電池パックを火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

 電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入る  
と危険  
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者の診断を受けてください。

## !**警告**

-  **分解や改造をしない**  
本機は電波法に基づく無線局で使用する通信機器です。  
分解や改造は違法ですのでおやめください。  
また、ケガ等の事故や故障の原因になります。
-  **本機は、“IP68相当”的防塵・防浸構造になっておりますが、特に海水などをついたときは真水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる性能や寿命を低下させる原因になります。**
-  **自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない**  
本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあります、誤動作による事故の原因になります。
-  **心臓ペースメーカー装着者は使用しない**  
本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあります、誤動作による事故の原因になります。

 **当社指定以外の充電器を使用しない**  
火災や故障の原因になります。

 **煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、リチウムイオン電池パックを外す**  
火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店にご相談の上、修理を依頼してください。

 **心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る**  
本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあります、誤動作による事故の原因になります。

## ⚠ 注意

- 🚫 指定以外のオプションを使用しない  
ケガの原因になります。  
また、本体の故障や破損の原因にもなります。
- 🚫 強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない  
故障の原因になります。
- 🚫 リチウムイオン電池パックを、指定の充電器で充電するときの温度範囲は5°C~35°Cです  
これ以外の温度での充電は、故障の原因になります。

- ❗ 磁気カードなどをトランシーバーに近づけない  
キャッシュカードなどの内容が消去されることがあります。
- ❗ トランシーバーを直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない  
変形や変色等の原因になります。
- ❗ シンナーやベンジンなどでケースを拭かない  
変形や変色等の原因になります。  
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

## 正しくご使用いただくために

- ◎ 本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。  
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- ◎ リチウムイオン電池パックを充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
- ◎ 外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。  
コードの断線などにより、故障の原因になります。
- ◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- ◎ 電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
- ◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- ◎ 通話する際は、マイクから約5センチ離して普通の声量で話してください。  
マイクと口元の距離が近かっただり、声が大きかっただりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。
- ◎ 運用が終わりましたら、電池パックが消耗しないように、無線機の電源を切ってください。
- ◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

## 防水性能について

本機は、IEC国際規格IP68相当(防塵等級6<sup>\*1</sup>、防水等級8<sup>\*2</sup>)の防塵、防水性能を有しています。この性能を永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎ キーやボタンのラバー、アクセサリーコネクタ保護カバー、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接當てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。

\*1 : 粉塵が内部に侵入しない。

\*2 : 水深1.5mに30分間没しても有害な影響を受けないこと。

## 電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル(例：“CHO1”と“CHO2”)でのご使用を避けいただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

## 通信方式について

- ◎ 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線機の登録及び開設申請をすることでご利用いただけます。
- ◎ 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または当社国内営業部あてにお問い合わせください。
- ◎ 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3R」）との通話互換性を確保しています。  
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

## デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線局の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	351MHz	30	陸上及び 日本周辺海域
登録局 (上空利用)	3S		5	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3R」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

## チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成 (ARIB 無線設備の種別コード「3R」)

- ◎ チャンネル構成（通話チャンネル）  
“CH01”～“CH30”的30チャンネルが利用可能です。
- ◎ コールチャンネル  
“呼出 CH”（CH15）は「コールチャンネル」に設定されています。  
コールチャンネルでは、ユーザーコード（17ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信機能（30ページ参照）は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

**注意** コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

**補足** コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび秘話通信の設定をすることができません。

- ◎ 上空用チャンネルモニター（受信専用）  
セットモードの「S 07 使用 CH」（34ページ参照）を“陸・海・空”に設定すると、上空用チャンネルの5チャンネル（CHS1～CHS5）を受信することができます。  
上空用チャンネルで PTT ボタンを押すと「ピピピッ」と警告音が鳴り、ディスプレイに“TX INHIBIT”が反転表示され送信できません。

## 付属品

○ 無線機本体(SR510)	1
○ アンテナ(SRA-12FS) <sup>*1</sup>	1
○ 2200mAh 標準型リチウムイオン電池パック(SBR-19LI)	1
○ 急速充電器(SBH-19)	1
○ 急速充電器用ACアダプター(SAD-15A)	1
○ ベルトクリップ	1
○ アクセサリーコネクタ保護カバー(無線機本体に取り付けられています)	1
○ 取扱説明書(本書)	1
○ 無線局登録申請書	一式
○ 無線局登録申請の手引き	1
○ 保証書	1

\* 1 :  $\lambda/4$  短縮型、利得 2.14dB 以下

万一、不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

## オプション

○ 2200mAh 標準型リチウムイオン電池パック (SBR-19LI)	※付属品と同等
○ 1500mAh 薄型リチウムイオン電池パック (SBR-20LI)	
○ 急速充電器セット (SAD-1915A)	※付属品と同等
○ 連結型充電器 (SBH-29)	
○ 連結型充電器用ACアダプター (SAD-50A)	
○ 単三形アルカリ乾電池ケース (SBT-14)	
○ キャリングケース (SHC-30)	
○ スタビーアンテナ (SRA-12FS)	※付属品と同等
○ ホイップアンテナ (SRA-11F)	

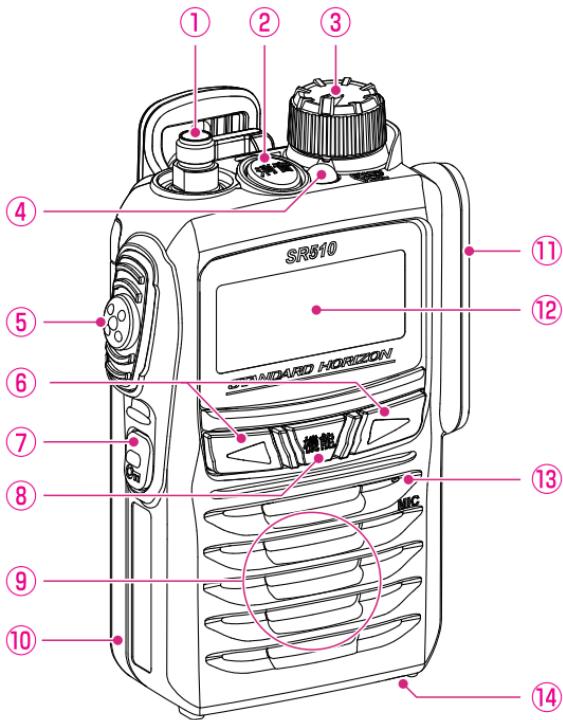
電池パックはリサイクルできます。

電池パックが不要になった場合は廃棄せず、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



# 各部の名前と機能

## 本体 (SR510)



### ① アンテナコネクター (11 ページ参照)

アンテナを接続します。

### ② 消音キー (29 ページ参照)

押すと画面に大きく“MUTE”と表示され、受信音をミュート（消音）できます。再度このキーを押すか、または他のキーを押したり送信するとミュートが解除されます。

簡易メニューおよびセットモードで、このキーを押すと変更操作をキャンセルして設定値は保存せずに1つ前に戻ります。

### ③ PWR/VOL ツマミ (15 ページ参照)

電源の ON/OFF と音量の調節をします。

#### ④ LED インジケーター

通信モードや状態などにより “緑色” または “青色” の点滅、送信中は “赤色” に点灯します。バッテリー消耗時は、“赤色” で点滅します。

LED インジケータの色・状態	通信（動作）状態
緑色点滅	通信受信中
青色点滅	秘話通信受信中
赤色点灯	送信中
赤色点滅	電池パックが空になったとき

#### ⑤ PTT(通話)ボタン (15 ページ参照)

[PTT] ボタンを押すと、無線機は送信状態になります。放すと待ち受け / 受信状態になります。

簡易メニューで [PTT] ボタンを押すと変更操作をキャンセルして設定値は保存せずにメニューを抜けて CH 表示に戻ります。

#### ⑥ ◀ / ▶ キー

- ◎ チャンネル切替えをします。
- ◎ 個別通信の宛先メニュー表示中に呼び出し方法 「 ⇌ 個別 ⇌ グループ ⇌ 一斉 (A L L) ⇌ 個別 ⇌ 」 (20 ページ参照) を選択をします。

#### ⑦ ロックキー (16 ページ参照)

- ◎ 約2秒以上押すと、誤って各種キーに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。もう一度約2秒以上押すとロック解除となります。
- ◎ 短く押すと、約2秒間ディスプレイと各キーの照明が点灯します。

#### ⑧ 機能キー

- ◎ 約2秒以上押すと、“簡易メニュー” 画面になります。
- ◎ [機能] キーを押しながら、電源を “オン” にするとセットモードになります。

#### ⑨ スピーカー

#### ⑩ リチウムイオン電池パック (12、13 ページ参照)

#### ⑪ アクセサリーコネクタ端子 (41 ページ参照)

スピーカーマイクなどのオプションを接続します。

#### ⑫ フルドットディスプレイ (次ページ参照)

#### ⑬ マイク

マイクと口元の間隔は 5cm 位が適当で、普通の声で話します。この穴は塞がないようにしてください。

#### ⑭ ノイズキャンセリングマイク

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。この穴は塞がないようにしてください。

## フルドットディスプレイ



- ◀ アイコン表示部
- ◀ チャンネル / モード等表示部
- ◀ ユーザーコード / 不在表示 / 個別選択呼出コード等表示部

	アンテナ (電界強度表示 / 送信出力表示) 受信時：受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時：送信出力を3段階で表示します。  H : H (2.5W 出力) N : N (2W 出力) L : L (1 W出力)
	送信出力 (29 ページ参照) 設定されている送信出力を表示します。 H : High Power (2.5W 出力) N : Normal Power (2W 出力) ※ L : Low Power (1 W出力) R : 受信専用チャンネル (送信できません) ※工場出荷時はN (2W出力) に設定されています。
	キーロック (16 ページ参照) 設定されたキーやツマミがロックされ、キーロック機能が動作しているときに点灯します。
	電池パック残量 電池パックの残量を5段階で表示します。 電池が消耗すると、ディスプレイの電池マークが右記のように変化します。 電池マークが点滅し、LED インジケータが赤色に点滅した時は、直ちに充電を行ってください。
	オートチャンネルモード (27 ページ参照) UC (ユーザーコード) 通信時に混信した場合、他の空きチャンネルに自動的に移動するオートチャンネルモードが “ON” のときに点灯します。

: 十分使えます  
 : まだ使えます  
 : 残りわずかです  
 : 空になりました  
 : すぐに充電してください

<b>秘</b>	秘話（30 ページ参照） 秘話通信機能が “ON” のときに点灯します。
<b>上</b>	上空用チャンネル（34 ページ参照） 上空用チャンネル（受信専用）が選択されているときに点灯します。
<b>不在</b>	不在（24 ページ参照） 個別通信（個別呼出、グループ呼出、一斉呼出）の受信時に応答しなかった場合に、相手局 ID と不在表示が点滅します。
<b>UC□□□</b>	ユーザーコード（17 ページ参照） 設定している 3 衔のユーザーコード（000～511）を表示します。
<b>個別□□□</b>	個別呼出（19 ページ参照） 個別通信の個別呼出に設定しているときに点灯し、個別呼出 ID（001～200）を表示します。 個別通信の個別呼出を受信したときに点灯し、相手局の自局 ID（001～200）を表示します。
<b>グルーブ□□□</b>	グループ呼出（21 ページ参照） 個別通信のグループ呼出に設定しているときに点灯し、グループ呼出 ID（001～030）を表示します。 また、グループ呼出を受信したときに点灯し、呼び出されたグループの呼出 ID（001～030）を表示します。
<b>ALL</b>	一斉呼出（ALL）（24 ページ参照） 個別通信の一斉呼出に設定しているとき、また、一斉呼出を受信したときに点灯します。

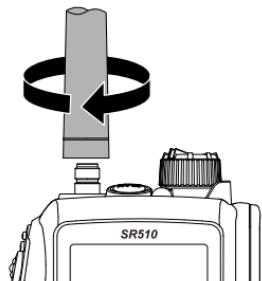
# 準備

## アンテナの取り付け

アンテナのコネクタに近い太い部分を持ち、時計回りにしっかりと止まるまで回します。

**注意**

- アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナ内部で断線して故障することがあります。
- アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。



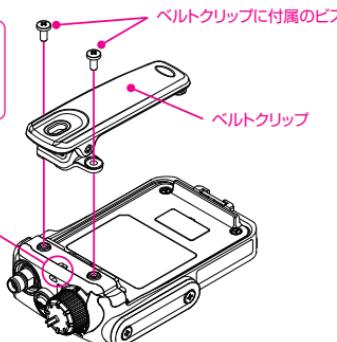
## ベルトクリップの取り付け

① ベルトクリップに付属しているビス 2 本で、ベルトクリップを取り付けます。

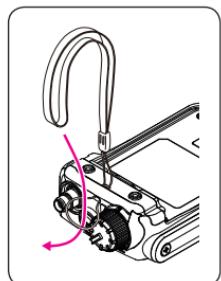
**注意**

ベルトクリップの取り付け / 取り外しは、必ずリチウムイオン電池パックや乾電池ケースを取り外した状態で行ってください。

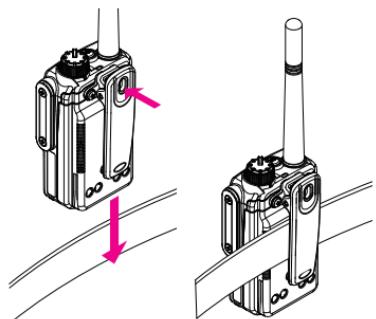
**注意**  
ベルトクリップの取り付けまたは取り外しの際には、必ず電池パックを取り外してください。



市販のハンドストラップの取り付け



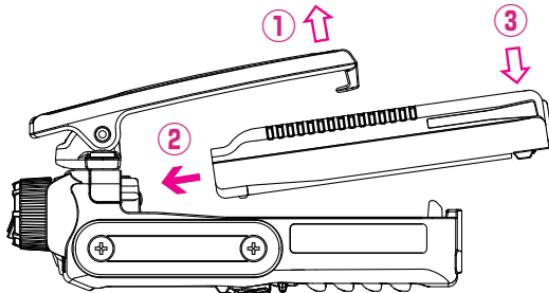
ベルトクリップの先端を指で押しながら、確実にベルトへ取り付けてください。



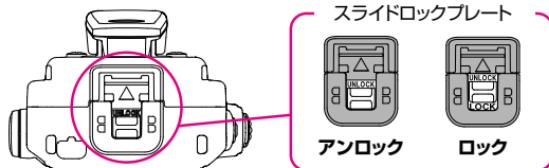
# 電池パックの取り付け / 取り外し

## リチウムイオン電池パックを取り付ける

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② 電池パックの底面を押しながらスライドさせます。
- ③ 電池パックの背面を押して、「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



- ④ 無線機本体の底面にあるスライドロックプレートを「カチッ」と音がするまで確実にロックの位置にスライドさせます。



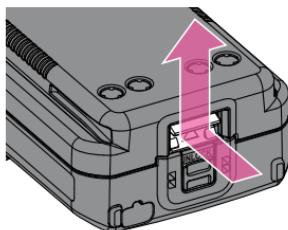
**注意** スライドロックプレートを確実にロックしていないと、落下事故や故障の原因になります。

## リチウムイオン電池パックを取り外す

- ① 無線機本体の底面にあるスライドロックプレートを「カチッ」と音がするまで確実にアンロックの位置にスライドさせます。
- ② 電池パック底面のラッチを指で摘みながら、電池パックを引き上げます。

**注意**

- ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。
- ベルトクリップを取り付けている場合は上げながら、電池パックを引き上げてください。
- 無線機や電池パックを落させないよう、十分に注意してください。



## リチウムイオン電池パックの充電方法

付属品の急速充電器（SBH-19）を使用して、リチウムイオン電池パックを充電します。充電方法は、「電池パックを無線機に取り付けた状態で充電する方法」と「電池パック単体で充電する方法」があります。電池パックを十分使い切った状態での充電時間は約3.5時間です。

**注意** 電池パックは“+5°C～+35°C”の温度範囲内で充電してください。この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。

### 電池パックを無線機に取り付けた状態で充電する方法

- ① 図を参考に急速充電器とACアダプターを接続します。
- ② 無線機の電源をオフにして急速充電器に挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯し、充電を開始します。

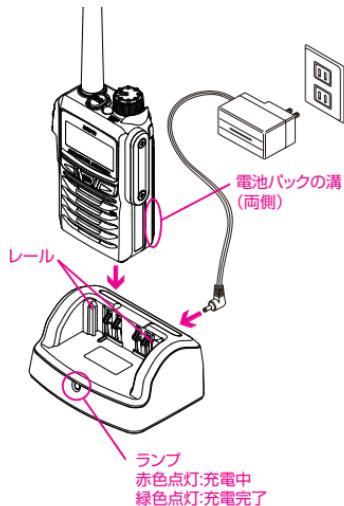
**補足** リチウムイオン電池パックの溝を急速充電器の内側のレールに合わせて差し込みます。

- ③ 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。

**注意** 長時間充電したままにしておくと、リチウムイオン電池パックを劣化させることができます。

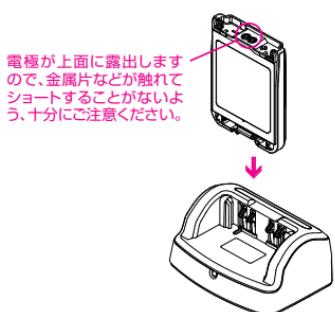
- ④ 充電が完了したら無線機を急速充電器から取り外し、ACアダプターをコンセントから外してください。

**補足** リチウムイオン電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。



### 電池パック単体で充電する方法

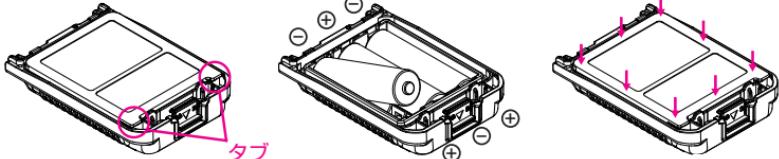
- 電池パックの溝を急速充電器の内側のレールに合わせて挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯し、充電を開始します。
- 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。



# アルカリ乾電池ケースの使い方

オプションのアルカリ乾電池ケース（SBT-14）を使うと、単三形アルカリ乾電池3本を無線機の電源として使用できます。

- ① 乾電池ケース裏側のフタのタブをつまみ、フタを開けます。
- ② 電池の極性に注意して、単三形アルカリ乾電池3本を乾電池ケースに入れます。
- ③ フタの向きに注意して、フタを乾電池ケースの溝に合わせてはめていきます。
- ④ 浮いている部分がないように、指でフタをしっかりと押して乾電池ケースの溝にはめます。



アルカリ乾電池ケース（SBT-14）を使用している場合、送信出力は自動的にLow(1W)に固定され送信出力を変更することはできません。



- マンガン乾電池は使用できません。また、充電式の単三形電池も使用できません。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。乾電池が漏液、発熱、破裂するおそれがあります。
- 長時間本機を使用しない場合は、乾電池ケースから乾電池を取り外してください。
- 乾電池ケースの端子や電極が汚れていると、接触不良で本機が正しく動作しなくなったり、発熱や破裂などの原因となります。端子や電極が汚れた場合は、乾いた布や綿棒で清掃してください。

## 電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マーク（電池残量表示）が右記のように変化します。

### ローバッテリーアラート機能

電池が空になると電池マークが点滅し、さらにLEDインジケータが赤色に点滅します。その時は、直ちに充電を行ってください。

- |  |             |
|--|-------------|
|  | 十分使えます      |
|  | まだ使えます      |
|  | 残りわずかです     |
|  | 空になりました     |
|  | すぐに充電してください |

### 電池持続時間\*

電池パック / アルカリ乾電池ケース	送信出力		
	High (2.5W)	Normal (2W)	Low (1W)
薄型リチウムイオン電池パック <b>SBR-20LI</b> (1500mAh)	約9時間	約10時間	約11時間
標準型リチウムイオン電池パック <b>SBR-19LI</b> (2200mAh)	約13時間	約14時間	約16時間
アルカリ乾電池ケース <b>SBT-14</b>	—	—	約12時間

\*電池持続時間は、送信:受信:待受 = 5:5:90 の割合で運用時（本体内蔵スピーカー、バッテリーセーブ機能オン）

\*使用条件や周囲の温度により、使用できる時間が異なることがあります（特に寒冷地では使用時間が短くなります）。

\*アルカリ乾電池の製造元や種類によって、使用できる時間が大きく異なることがあります。

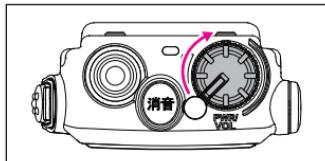
## 基本的な使い方

### ① 電源を入れます。

[PWR/VOL] ツマミを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が約2秒間表示され、その後「ピポッ」と電子音が鳴り、チャンネル番号とユーザーコードが表示されます。



### ② 音量を調節します。

[PWR/VOL] ツマミを10～11時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、[PWR/VOL] ツマミで調節します。

### ③ チャンネルをあわせます。

[◀]または[▶]キーを押して、CH01～30の通話チャンネルから、相手と同じチャンネルに合わせます。



#### 通話チャンネル

⇒ CH01 ⇌ CH02…呼出 CH(CH15)…CH29 ⇌ CH30 ⇌ CHS1 \*⇒ CHS2 \*…CHS5 \*  
※ CHS1～5は上空用チャンネル（受信専用）です。セットモードの「SO7 使用 CH」（34ページ参照）で“陸・海・空”に設定した場合に選択できます。

補足

“CH01”（または使用チャンネルに設定した最小CH）にあわせた時に「ビビビ」というビープ音が鳴ります。無線機を腰に付けていたりなどして表示を確認しながら、簡単にチャンネル選択することができます。

### ④ 送信（通話）します。

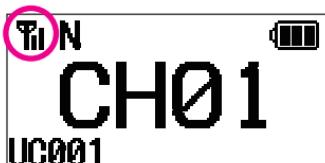
[PTT（通話）] ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

- キャリアセンス機能（26ページ参照）により混信している場合は送信できません。
- マイクと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。

補足

○送信中は“”（送信出力が“Normal”時）が表示され、LEDインジケーターが赤色に点灯します。

○送信出力は“H”(2.5W)、“N”(2W)、“L”(1W)に切り替えることができます（29ページ参照）。



補足

連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後にアラームが「ビビビ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。（26ページ参照）

## ⑤ 相手の音声を受信します。

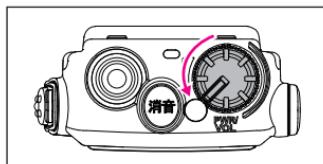
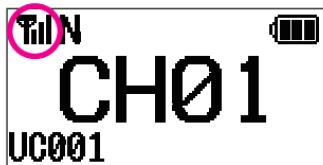
[PTT(通話)] ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

**補足** 信号を受信すると LED インジケータが点滅し(8 ページ参照)、電波の強さに応じて、ディスプレイに “ ~ ” が点灯します。

## ⑥ 電源を切ります。

[PWR/VOL] ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

**補足** 一週間以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないように、無線機の電源を切り、無線機から電池パックを外してください。



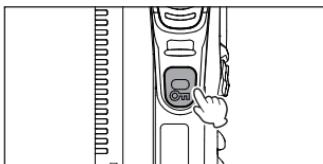
## キーロック機能

誤って各キーを押しても、設定が変わらないようにキーをロックする機能です。

- ① 本体側面の [On] キーを長押しします。
- ② ディスプレイに約 1 秒間 “LOCK” が表示され “On” が点灯し、キーがロックされます。

**補足**

- [On] キーを短押しするとバックライトが点灯します。
- キーロック中に各キーを押すと「ブブ」とビープ音が鳴り、ディスプレイに再び 1 秒間 “LOCK” が表示されます。
- セットモードの「S13 キーロック」(36 ページ参照)でロックするキーを変更することができます。



- ③ キーロックを解除するには再度、[On] キーを長押しします。

## 通信方式について

SR510 は「UC(ユーザーコード)通信」と「個別通信」の二通りの通信方式に対応しています。工場出荷時(初期値)は UC(ユーザーコード)通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信通話方式に設定してからご使用ください。

- UC(ユーザーコード)通信(17 ページ参照)  
同じチャンネルで同じ UC を設定している局同士が通話できる通信方式
- 個別通信(19 ページ参照)  
同じチャンネルで同じ UC(ユーザーコード)を設定している局の中で、特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる通信方式

## 設定のリセットについて

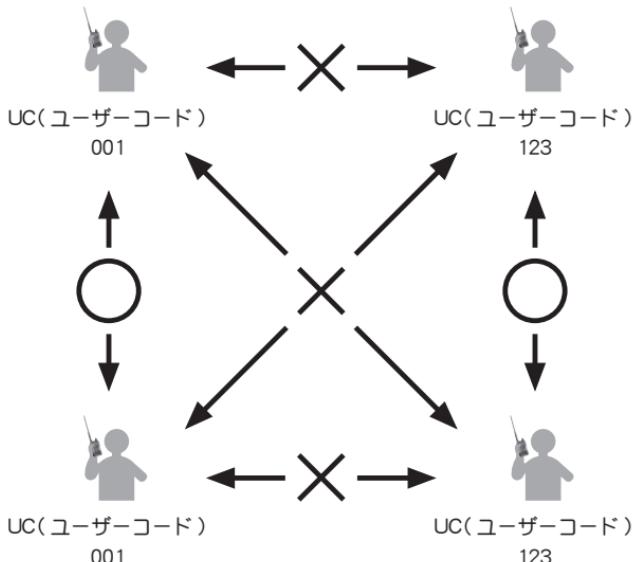
設定モードの「S25 設定リセット」(40 ページ参照)で無線機の全ての設定を工場出荷時設定(初期値)に戻すことができます。

## UC(ユーザーコード)通信

UC通信は同じチャンネルにあわせている局で、かつ同じUC(ユーザーコード)を設定している局同士だけが通話することができる通信方式です。

UC通信方式は、ARIB規格で規定されており、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。

ユーザーコード通信のイメージ



### ◎ ユーザーコードとは

ユーザーコードは3桁の数字で構成されていて、“000”～“511”の中から設定することができます。

補足

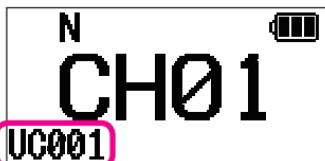
- ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手しか通信することができません。
- 本機のUC(ユーザーコード)は、初期値では“000”に設定されています。
- 他ユーザーとの混信を避けるため、UC(ユーザーコード)は“000”以外に設定することをお勧めします。

## UC（ユーザーコード）通信の設定方法

UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。ユーザーコードが異なる局はとは交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。

なお、設定したユーザーコードは全てのチャンネルで共通です。

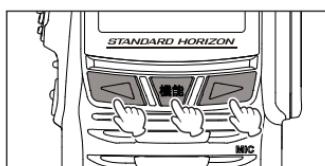
- ① 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせます。
- ② ディスプレイ左下に表示されているユーザーコードが相手局すべてと同じになっていることを確認します。



ユーザーコードの変更が必要ない場合は、以下の操作は不要です。

**補足** ディスプレイの右下に“個別”、“グループ”または“ALL”が表示されている場合は個別通信方式になっています。あらかじめセットモード「S01 通信方式」(33 ページ参照)で“UC 通信”に設定してください。

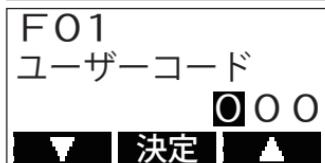
- ③ [機能]キーを長押して“簡易メニュー”を表示させます。



- ④ 「FO1 ユーザーコード」が表示されますので、[機能]（選択）キーを押します。

ユーザーコードの一番左の桁が点滅します。

- ⑤ [◀]（▼）または[▶]（▲）キーを押して数字を選択します。



- ⑥ [機能]（決定）キーを押すと、ユーザーコードの点滅している桁が右に移動します。

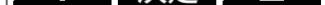
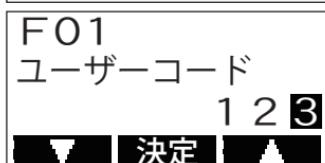
手順④と⑤を繰り返して、3桁のユーザーコードを入力します。

- ⑦ 3桁目を設定して[機能]（決定）キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、ユーザーコードが確定されます。

- ⑧ [PTT]ボタンを押すと、「ブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。

以上で UC（ユーザーコード）通信の設定は終了です。

同じチャンネルで同じ UC に設定した局と通話することができます。(15 ページ参照)



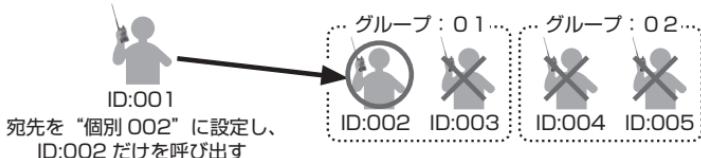
## 個別通信

個別通信とは、特定の相手だけを呼び出すことや特定のグループに属する全員を呼び出すこと、または全ての局を一齐に呼び出して通話をすることができる通信方式です。さらに、グループ親機に設定した局は、全てのグループからの呼出を受けることができ、また、特定のグループを選択して呼び出すことができますので大変便利です。

この通信方式を利用するには各トランシーバーに個別の ID 番号（自局 ID とグループ ID）を設定する必要があります。自局 ID 番号はセットモードの「[S02 個別自局 ID]」(33 ページ参照) で設定します。自グループ ID の設定方法は、「特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）」(21 ページ参照) をご覧ください。

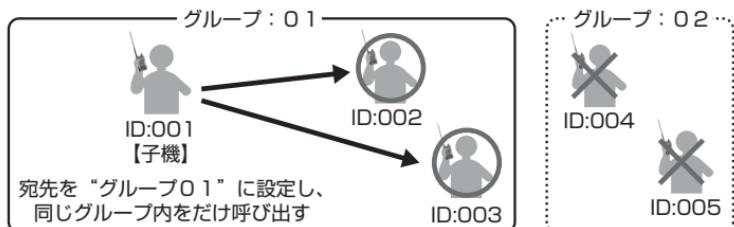
### 個別通信のイメージ

- 特定の相手だけを呼び出す（個別呼出）

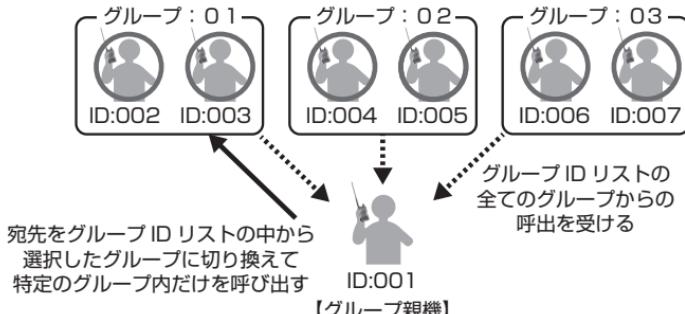


- 特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

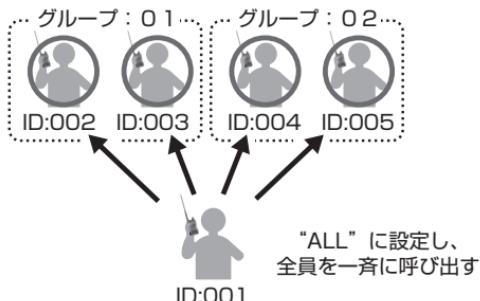
#### 【グループ子機に設定した場合】



#### 【グループ親機に設定した場合】



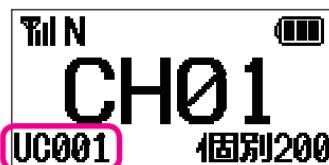
## ◎ 全員を一斉に呼び出す（一斉呼出 ALL）



## 個別通信の設定方法

- ① 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせます。
- ② ディスプレイ左下に表示されているユーザー コードが相手局すべてと同じになっているこ とを確認します。

ユーザー コードの変更が必要な場合は、「UC (ユーザー コード) 通信の設定方法」(18 ページ参照) を参照してください。

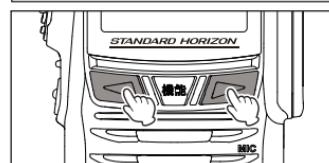


**補足** ディスプレイの右下に“個別”、“グループ”または“ALL”が表示されていない場合は UC 通信方式になっています。あらかじめセットモードの「S01 通信方式」(33 ページ参照) で“個別通信”に設定してください。

- ③ [機能] キーを押して“宛先メニュー”を表示させます。



- ④ [◀] または [▶] キーを押して、希望する「呼び出し方法」を選びます。



- ⑤ [機能] キーを押すか、操作を止めて 5 秒後にチャンネル表示に戻ります。  
以上で個別通信の設定は終了です。

個別通信の呼出方法（“個別呼出”、“グループ呼出”、“一斉呼出”）の設定については、次ページ以降を参照してください。

補足

宛先メニュー表示中に [PTT] ボタンを押して、通話を始めると通話を終了するまで “宛先メニュー” を表示し続けていますので、簡単に呼び出し方法を変更することができます。

補足

○相手からの応答がなく、応答待ち時間(5秒間)が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。

○応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。

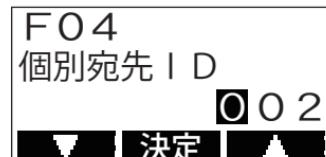
○個別通信方式では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。

## 個別通信の呼び出し方法の設定

### 特定の相手を呼び出す（個別呼出）

呼び出したい特定の相手局の個別 ID を設定して、個別に呼び出します。

- ① [機能] キーを長押しして、“簡易メニュー”を表示させます。
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して「F04 個別宛先ID」を選び、[機能] (決定) キーを押します。個別宛先IDの一一番左の桁が点滅します。



補足

宛先メニューの“個別呼出”画面（前ページ参照）を表示しているときに、[機能] キーを長押しすると、直接、簡易メニュー「F04 個別宛先ID」を表示させて、呼び出したい“個別宛先ID”を簡単に設定することができます。

- ③ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して希望の“個別宛先ID”を入力します。
- ④ [機能] (決定) キーを押します

個別宛先IDの点滅している桁が右に移動します。

③と④の操作を繰り返して3桁のIDを入力します。

3桁目を設定して [機能] (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、個別宛先IDが確定されます。

- ⑤ [PTT] ボタンを押します

「ブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。

### 特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

グループ呼出には、下記の二つの設定があります。

#### 「グループ子機」

自グループからの呼び出しを受け、自グループの呼び出しができます。

#### 「グループ親機」

グループIDリストに登録したすべてのグループIDからの呼び出しを受け、選択した特定のグループの呼び出しができます。

グループ呼出をおこなうためには、あらかじめ、グループ子機 / グループ親機の設定とグループIDリストの設定が必要です。（次ページを参照）

## グループ子機またはグループ親機の設定

- ① 一度、電源を切って、[機能]キーを押しながら電源を入れ、セットモードを表示させます。  
② [機能]キーを押して、セットモードに入ります。

③ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、「S 03 グループ親機／子機」を選び、[機能] (選択) キーを押します。

④ [◀] または [▶] キーを押して、“子機”または“親機”を選び、[機能] (決定) キーを押して確定させます。

## グループ ID リストの設定

① セットモードで [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、「S 04 グループ ID リスト」を選び、[機能] (選択) キーを押します。

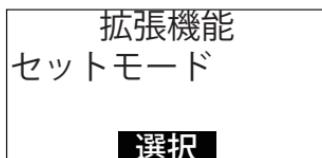
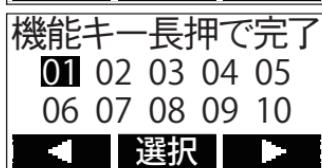
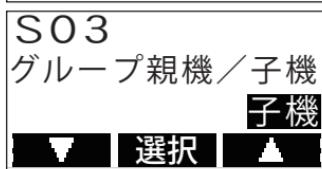
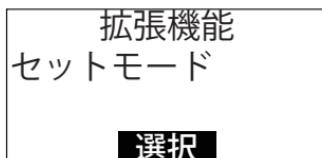
② [◀] または [▶] キーを押して、グループ ID リストに追加したいグループ ID を選び、[機能] (選択) キーを押します。  
複数のグループ ID を選択することができます。

③ [機能] (選択) キーを長押しして、グループ ID リストへの追加を完了させます。

④ 一度、電源を切って再び電源を入れ、チャンネル表示へ戻ります。

## ◎グループ子機に設定した場合の自グループの設定

- ① 一度、電源を切って、[機能]キーを押しながら電源を入れ、セットモードを表示させます。  
② [機能]キーを押して、セットモードに入ります。  
③ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、「S 05 自グループ ID」を選び、[機能] (選択) キーを押します。



④ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して希望する“自グループ ID”を選択し、[機能] (選択) キーを押します。

セットモードの「S04 グループ ID リスト」の設定 (22 ページ参照) でグループ ID リストに追加した ID の中から 1 個を選択することができます。

⑤ 一度、電源を切って再び電源を入れ、チャンネル表示画面へ戻ります。

以上で、グループ子機に設定した場合の自グループの設定は終了です。

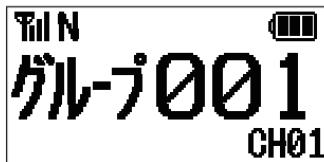
#### ◎グループ親機に設定した場合のグループ呼び出し設定

① チャンネル表示画面で [機能] キーを押して“宛先メニュー”を表示させます。

(最後に設定した宛先 (個別、グループまたは ALL) が表示されます。)

② [◀] または [▶] キーを押して、“宛先メニュー”の中から呼び出したいグループ ID を選びます。

セットモードの「S04 グループ ID リスト」の設定 (前ページ参照) でグループ ID リストに追加した ID の中から選択することができます。



※上記はグループ ID リストにグループ 01、グループ 05、・・・、グループ 30 が追加されている例を示しています。

③ [機能] キーを押すか、操作を止めて 5 秒後にチャンネル表示に戻ります。

以上で、グループ親機に設定した場合のグループ呼び出し設定は終了です

補足

- 同時に複数のグループを呼び出すことはできません。
- “宛先メニュー”の表示中に [PTT] ボタンを押して通話を始めると、通話を終了するまで“宛先メニュー”を表示し続けますので、簡単に呼び出し方法を変更することができます。

## グループ着信割り込み設定について

“グループ親機”に設定している場合にセットモード「S06 グループ着信割込み」(34 ページ参照)でグループ着信割り込みを“許可”に設定すると、あるグループとの通話中(通話終了状態になる前)であっても、他のグループからの呼び出しを受ける(割り込み)ことができます。

割込みを受けると自局のグループ呼出の宛先は、自動的に呼び出してきたグループ ID に切り替わり、[PTT] ボタンを押すだけでそのグループと通話することができます。

呼び出してきたグループとの通話が終了すると自動的に最後に選択していたグループ ID に戻ります。

### 全員を一斉に呼び出す(一斉呼出 ALL)

グループに関係なく全員を一斉(ALL)に呼び出します。

- ① [機能]キーを押して、“宛先メニュー”を表示させます。
- ② [◀]または[▶]キーを押して、「ALL」を選択します。
- ③ [機能]キーを押すか、操作を止めて 5 秒後にチャンネル表示に戻ります。

### 呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、相手局の ID と個別通信方式が表示されます。

○すぐに応答できなかった場合“不在着信状態”となります。

○不在着信状態をキャンセルする場合は、[機能]キーを押してください。

#### 個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきた相手局の個別 ID が表示されます。受信中は LED インジケーターが緑色または青色に点滅します。

すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“個別”と相手局の個別 ID が表示されます。

応答する場合は、そのまま [PTT] ボタンを押すと相手を呼び出します。



#### グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきたグループ ID が表示されます。受信中は LED インジケーターが緑色または青色に点滅します。

すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“グループ”とグループ ID が表示されます。

応答する場合は、そのまま [PTT] ボタンを押すとそのグループを呼び出します。



## 一斉呼び出し（ALL）を受けたとき

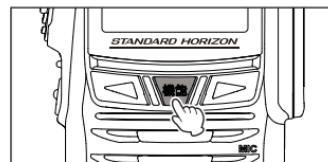
ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示されます。受信中は LED インジケーターが緑色または青色に点滅します。

すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“ALL”が表示されます。応答する場合は、そのまま [PTT] ボタンを押すと一斉呼び出しをします。



## 簡易メニュー

[機能] キーを長押しして “簡易メニュー” を表示させて、通信中に使用するユーザーコードや秘話機能、個別宛先 ID、送信出力などの設定を行うことができます。



トランシーバーの設定や選択している通信チャンネルなどによって、簡易メニューの一部の項目が表示されない場合があります。

項目	初期値	設定値	機能
F01 ユーザーコード*	000	000 ~ 511	ユーザーコードを設定します (詳細は 17 ページ参照)
F02 秘話*	OFF	OFF/ON	秘話機能の ON/OFF を設定します (詳細は 30 ページ参照)
F03 秘話コード*	00001	00001 ~ 32767	秘話コードの設定をします (詳細は 30 ページ参照)
F04 個別宛先 ID	002	001 ~ 200	個別通信の個別宛先 ID を設定します (詳細は 21 ページ参照)
F05 個別自局 ID	001	(表示のみ)	個別通信の自局 ID を表示します (設定方法は 33 ページ参照)
F06 送信出力*	N	H/N/L	送信出力を設定します (詳細は 29 ページ参照) High(2.5W)/Normal(2W)/Low(1W)

○変更操作の途中で [消音] キーを押すと、変更操作をキャンセルして 1 つ前の状態に戻ります。[PTT] ボタンを押すと、変更操作をキャンセルして簡易メニューを抜けて CH 表示に戻ります。いずれの場合も設定値は保存されません。

\* : S22 設定クローン (39 ページ参照) を行うとコピーされる項目です。

## 通信時に動作する機能について

### キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

送信禁止時に [PTT] ボタンを押すと、ディスプレイに “BUSY” が表示され、「ピピピッ ... ピピピッ ...」と警告音を発し続け送信することができません。受信を示すLED インジケータが消えてから送信を開始してください。

補足

“BUSY” の表示の状態で [PTT] ボタンを押し続けた場合、受信電波がなくなり次第、“BUSY” 表示がチャンネル表示に切り替わり自動的に送信状態になります。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンスを行います。

### 通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限）

本機の連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。そのまま [PTT] ボタンを押し続けた場合、送信を開始してから5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になります。

アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

### ヒートプロテクション（高温時の保護機能）

無線機が高温になっている場合に、[PTT] ボタンを押すとディスプレイに “HEAT” と表示され、自動的に送信出力が低下します。

さらに高温になった場合に、[PTT] ボタンを押すとディスプレイに “HEAT” と表示され、LED インジケータが消灯し、「ピピピッ ... ピピピッ ...」と警告音を発し続け送信することができません。温度が低下してから送信を開始してください。

## 各種の便利な機能

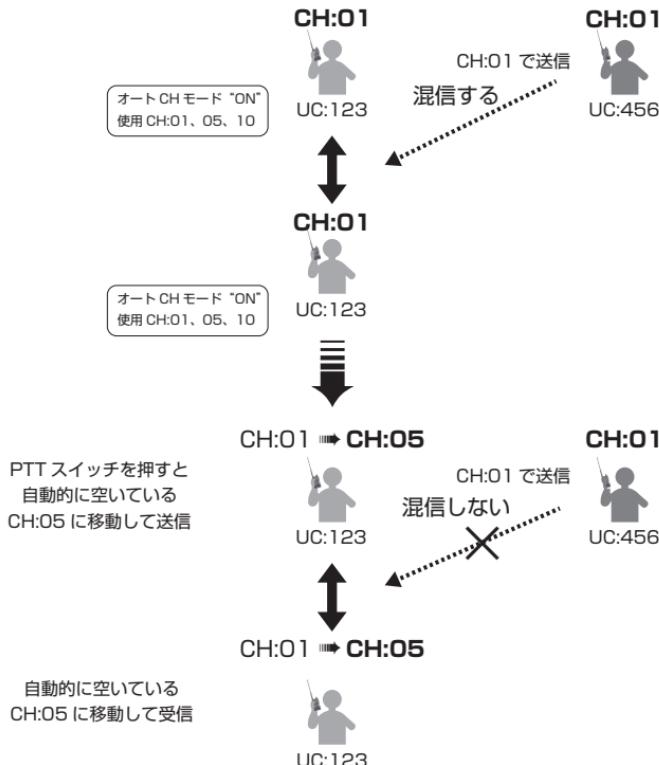
### オートチャンネルモード

UC（ユーザーコード）通信方式で、他局が使用しているチャンネル（混信）を避けて、他の空いているチャンネルに、自動的に移動して通話をすることができる機能です。混信があつたときにも煩わしい操作や相手への連絡などが不要で、すぐに空きチャンネルで通話を続けることができます。

この機能を利用するには通話をを行う各トランシーバーに、セットモードの「[S 07 使用 CH]」（34 ページ参照）で同じ“使用チャンネル”を設定する必要があります。

#### オートチャンネルモードの動作イメージ

CH:01 に設定し、他のユーザーコード（例では UC:456）の混信を受けているときに、[PTT] ボタンを押すと使用 CH に登録されている中で、自動的に混信のないチャンネル（例では CH:05）に移動して送信します。受信側も同じユーザーコードの通信が行われているチャンネル（CH:05）に自動的に移動します。



## オートチャンネルモードの設定方法

オートチャンネルモードで使用するチャンネル（使用 CH）の設定とオートチャンネルモードを“オン”にします。通話を行うすべてのトランシーバーを同様に設定してください。

- ① [機能] キーを押しながら、[PWR/VOL]  
ツマミを右にまわして電源を入れます。

- [機能]（選択）キーを押してセットモードに入ります。

**補足** オートチャンネルモードは UC 通信でのみ使用できます。セットモードの「S01 通信方式」(33 ページ参照) で “UC 通信” に設定してください。

- ② [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「S07  
使用 CH」を選択します。

- ③ [機能]（選択）キーを押します。  
現在の使用 CH が点滅します。

- ④ [◀] または [▶] キーを押して“選択”を選びます。

- ⑤ [機能] キーを押します。

[◀] または [▶] キーを押して使用するチャンネルを選択し [機能]（選択）キーを押します。選択されたチャンネルは反転表示されます。

使用 CH は最大 5 チャンネルまで選択することができます。

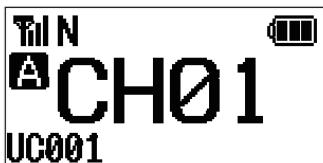
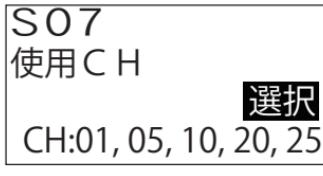
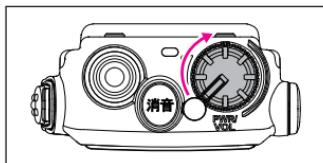
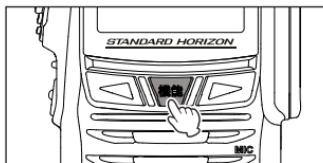
- ⑥ [機能]（選択）キーを長押して選択を完了します。

- ⑦ [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「S08  
オートCH」を選択します。

- ⑧ [機能]（選択）キーを押します。  
[◀] または [▶] キーを押して “ON” を選択します。

- ⑨ [機能]（決定）キーを押して選択を完了します。

- ⑩ 一度電源を切って、入れ直すとディスプレイ左側に “A” が表示され、オートチャンネルモードが“オン”になります。



## 送信出力設定

送信出力を High(2.5W)/Normal(2W)/Low(1W) に切り換えることができます。相手との距離が近い場合などで送信出力を下げて電池パックの持続時間を延ばすことができます。なお、アルカリ乾電池ケース（SBT-14）を使用している場合、送信出力は自動的に Low(1W) に固定され、この設定項目は表示されません。

- ① [機能] キーを長押しして “簡易メニュー” を表示させます。

- ② [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「FO6 送信出力」を選択します。

- ③ [機能] (選択) キーを押します。

- ④ [◀] または [▶] キーを押して “送信出力” を設定します。

H : High Power (2.5W 出力)

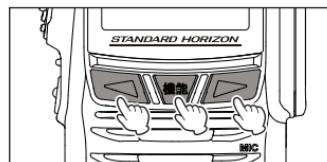
N : Normal Power (2W 出力)

L : Low Power (1 W出力)

- ⑤ [機能] (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、設定が確定されます。

- ⑥ [PTT] ボタンを押します。

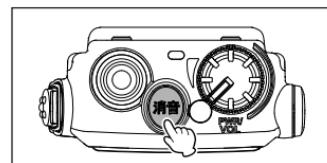
「ブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。



## ミュート (消音機能)

[PWR/VOL] ツマミをまわさずに [消音] キーを押すだけで、ワンタッチで音量をゼロにすることができます。もう一度押すとミュートは解除されます。

[消音] キーを押します。



ミュート中はディスプレイに “MUTE” と表示され、音量がゼロになります。

ミュートを解除するには再度、[消音] キーを押します。

他のキーを押しても解除できます。

補足

セットモードの「S12 消音キー」(36 ページ参照)を”モーメンタリ”に設定すると、[消音] キーを押している間だけ、音量をゼロにすることができます。

## 秘話通信機能

設定した 32,767 通りの秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができる機能です。

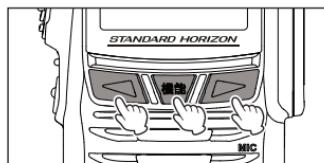
秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。秘話コードの初期値は“00001”に設定されています。ご使用の際に通話セキュリティを十分に確保するために、他の秘話コードに変更することをお勧めします。なお、秘話コードは全てのチャンネルで共通になります。

秘話通信を受信中は、LED インジケータが“青色”で点滅します。

**注意** チャンネルが“呼出 CH(CH15)”のときは、秘話機能は無効になり、秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルで行ってください。

① [機能]キーを長押しして“簡易メニュー”を表示させます。

② [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「FO2 秘話」を選択します。



③ [機能] (選択) キーを押します。

④ [◀] または [▶] キーを押して “ON” に設定します。



⑤ [機能] (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、設定が確定されます。

⑥ [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「FO3 秘話コード」を選択します。



⑦ [機能] (選択) キーを押します。

秘話コードの一番左の桁が点滅します。

⑧ [◀](▼) または [▶](▲) キーを押して、“秘話コード”を入力します。

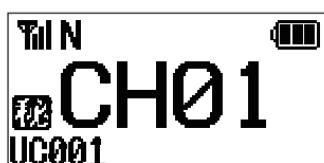
⑨ [機能] (決定) キーを押します。

秘話コードの点滅している桁が右に移動します。手順⑧と⑨を繰り返して 5 衍のコード入力します。

⑩ 5 衍目を設定して [機能] (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、秘話コードが確定されます。

⑪ [PTT] ボタンを押します。

「ブブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻り、ディスプレイ左側に“**秘**”が表示され、秘話機能が“オン”になります。



## 通信の設定機能～セットモード～

トランシーバーの通信方式、各種 ID や各機能の設定を行うことができます。

項目	初期値	設定値	機能
S01 通信方式*	UC 通信	UC 通信 / 個別通信	通信方式の選択
S02 個別自局 ID	001	001 ~ 200	個別通信の自局 ID
S03 グループ親機 / 子機*	子機	親機 / 子機	個別通信のグループ呼出しの着信タイプ
S04 グループ ID リスト*	01	01 ~ 30	グループ呼出しに使用するグループ ID リスト
S05 自グループ ID*	01	S04 グループ ID リストで指定した ID から選択	個別通信時の自グループ ID 設定
S06 グループ着信割込み*	許可	許可 / 禁止	親機の通話中のグループ呼出し割込許可の設定
S07 使用 CH*	陸・海	陸・海 / 陸・海・空 / 選択	使用する CH 選択
S08 オート CH*	OFF	OFF/ON	オート CH モード設定
S09 内部マイク*	+5	-18 ~ -1,0,+1 ~ +18	内蔵マイクの感度設定
S10 外部マイク*	+2	-18 ~ -1,0,+1 ~ +18	外部マイクの感度設定
S11 ノイズキャンセル*	ON	OFF/ON	ノイズキャンセルの設定
S12 消音キー*	トグル	トグル / モーメンタリ	消音キーの動作設定
S13 キーロック*	前面	前面 / 側面 / 前面 + 側面	ロック対象キー選択
S14 コード / 宛先表示*	ON	OFF/ON	UC と個別通信宛先の表示の設定
S15 ピーブレベル*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	ピーブ音量設定
S16 オーディオ出力*	内部スピーカー	内部スピーカー / 外部スピーカー / イヤホン	オーディオの出力先設定
S17 TX ピーブ*	OFF	OFF/ON	送信開始ピーブ設定
S18 RX ピーブ*	OFF	OFF/ON	相手局の送信終了ピーブ
S19 バッテリーセーブ*	OFF	OFF/ON	間欠受信機能の設定
S20 弱電界アラーム*	OFF	OFF/ON	受信信号が弱い場合のアラーム設定
S21 電池残量警報*	ON	OFF/ON	電池残量が少ない場合のアラーム設定
S22 設定クローン	---	送信 / 受信	設定をコピーする機能
S23 コントラスト*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	表示のコントラスト
S24 ディマー*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	バックライトの輝度
S25 設定リセット	---	---	全ての設定を初期値にする
S26 CSM	---	---	CSM 表示
S27 Serial No.	---	---	Serial No. 表示

○セットモードの各項目の操作方法については、次ページ以降を参照してください。

○セットモードではバックライトが点灯し続けます。

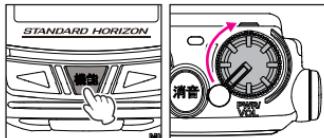
※：S22 設定クローン（39 ページ参照）を行うとコピーされる項目です。

## セットモードの基本的な操作方法

セットモードの基本的な操作方法について説明します。

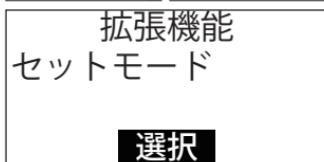
- ① セットモードを表示させます。

[機能]キーを押しながら、[PWR/VOL]ツマミを右にまわして電源を入れます。



- ② セットモードに入ります。

[機能]（選択）キーを押してセットモードに入ります。



- ③ 設定項目を選択します。

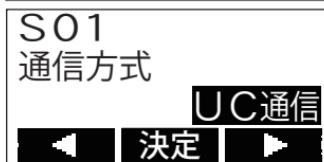
[◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、設定したい設定項目を表示させます。



- ④ 設定項目に入ります。

[機能]（選択）キーを押して設定項目に入ります。

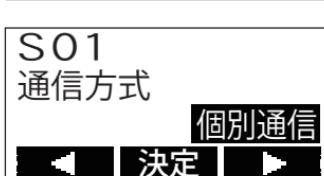
設定値が点滅表示されます。



- ⑤ 設定値を変更します。

[◀] または [▶] キーを押して設定値を変更します。変更操作について詳しくは、次ページ以降の各項目を参照してください。

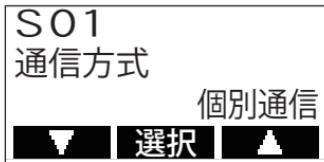
※ [消音] キーを押すと変更操作をキャンセルして 1 つ前の状態に戻ります。



- ⑥ 設定値を確定します。

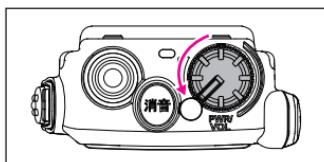
[機能]（決定）キーを押して設定値を確定します。

※ [機能]（決定）キーを押さずに電源を切ると変更操作をキャンセルすることができます。



- ⑦ セットモードを終了します。

[PWR/VOL] ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわし切って電源を切ります。



## SO1 通信方式

UC 通信方式と個別通信方式を切り換えることができます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「SO1 通信方式」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望の通信方式を選択します。

UC 通信 (初期値)	UC 通信方式で運用するとき
個別通信	個別通信方式で運用するとき

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## SO2 個別自局 ID

個別通信に使用する自局 ID を設定することができます。

- ※この項目は「SO1 通信方式」が“個別通信”的ときに設定できます。
- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「SO2 個別自局 ID」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
  - ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、自局の ID を 1 衔ずつ入力します。  
**001 (初期値) ~ 200** | 個別通信に使用する自局 ID
  - ③ [機能] (決定) キーを押します。
  - ④ 操作②と操作③を繰り返して 3 衔を入力し、[機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## SO3 グループ親機 / 子機

個別通信のグループ呼出時の着信動作を選択することができます。

※この項目は「SO1 通信方式」が“個別通信”的ときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「SO3 グループ親機 / 子機」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、設定を選択します。

子機 (初期値)	「SO5 自グループ ID」に設定した自グループ ID からの呼出を受け、通話が可能
親機	「SO4 グループ ID リスト」に設定した全てグループからの呼出を受け、特定のグループと通話が可能

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## SO4 グループ ID リスト

個別通信のグループ呼出に使用するグループ ID を選択することができます。

※この項目は「SO1 通信方式」が“個別通信”的ときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「SO4 グループ ID リスト」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望するグループ ID を選びます。

01～30 (初期値は <b>01</b> のみ選択)	個別通信のグループ呼出に使用するグループID (最大30までの複数のグループが選択ができます)
--------------------------------	--

- ③ [機能] (設定) キーを押すとグループIDが選択され反転表示されます。  
複数のグループIDを選択する場合は、操作②と③を繰り返します。
- ④ [機能] (決定) キーを長押しするとグループID設定が確定します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## SO5 自グループID

グループ子機に設定しているときに、個別通信のグループ呼出に使用する自グループIDを選択することができます。

※ この項目は「SO1 通信方式」が“個別通信”、かつ「SO3 グループ親機／子機」が“子機”的ときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➔ [機能] (選択) キー ➔ 「SO5 自グループID」を選択 ➔ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、希望の自グループIDを選択します。  

「SO4 グループIDリスト」	個別通信のグループ呼出 (自局をグループ子機に設定したグループID 設定している時) に使用する自グループID
-----------------	---
- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

機能キー長押で完了

01 02 03 04 05  
06 07 08 09 10



## SO6 グループ着信割込み

グループ親機に設定している場合、通話中に他のグループからの呼出 (着信割込み) を許可することができます。

※ この項目は「SO1 通信方式」が“個別通信”、かつ「SO3 グループ親機／子機」が“親機”的ときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➔ [機能] (選択) キー ➔ 「SO6 グループ着信割込み」を選択 ➔ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望の設定を選択します。

許可 (初期値)	通話中に他グループから呼出 (着信割込み) を許可
禁止	通話中に他グループから呼出 (着信割込み) を禁止

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## SO7 使用 CH

使用するチャンネルを選択することができます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➔ [機能] (選択) キー ➔ 「SO7 使用 CH」を選択 ➔ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、使用するチャンネルを選択します。

陸・海（初期値）	陸・海の CH01～30 が使用できます
陸・海・空	陸・海の CH01～30 と上空 CHS1～5(モニター専用) が使用できます
選択	陸・海の CH01～30 から最大 5 チャンネルを選択して使用できます（呼出 CH (CH15) および上空 CHS1～5 は選択できません） 選択したチャンネルは通常のチャンネル選択のほか、オートチャンネルモード（27 ページ参照）で使用します

③ “選択” を選んだ場合

もう一度 [機能] キーを押して、使用するチャンネル番号を個別に選択（初期値：CH01、CH05、CH10、CH20、CH25）できます。

- (1)[◀] または [▶] キーを押してチャンネル番号が выбираれます。
- (2)[機能]（選択）キーを押すとチャンネル番号が選択されて反転表示されます。最大 5 チャンネルまで選択できます。
- (3)[機能]（決定）キーを長押しします。
- ④ [機能]（決定）キーを押します。

その後電源を切ると設定は完了です。



## SO8 オートCH

オートチャンネルモード（27 ページ参照）のオン／オフを設定します。

※ この項目は「SO1 通信方式」が“UC 通信”かつ「SO7 使用 CH」が“選択”（2CH 以上選択時）のときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン（セットモード）⇒ [機能]（選択）キー ⇒ 「SO8 オート CH」を選択 ⇒ [機能]（選択）キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

OFF（初期値）	オートチャンネルモードを OFF にします
ON	オートチャンネルモードを ON にします

- ③ [機能]（決定）キーを押します。

その後電源を切ると設定は完了です。

## SO9 内部マイク

トランシーバーに内蔵しているマイクの感度を調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン（セットモード）⇒ [機能]（選択）キー ⇒ 「SO9 内部マイク」を選択 ⇒ [機能]（選択）キー

- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、内蔵マイクの感度を設定します。

-18 ~ +18 (初期値 : +5)	内蔵マイクの感度
----------------------	----------

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S10 外部マイク

アクセサリーの外部マイクの感度を調節します。

[機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡

「S10 外部マイク」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

① [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、外部マイクの感度を調節します。

-18 ~ +18 (初期値 :+2) | 外部マイクの感度

- ② [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S11 ノイズキャンセル

ノイズキャンセル機能のオン / オフを設定します。

① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S11 ノイズキャンセル」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを設定します。

ON (初期値)	ノイズキャンセル機能を ON にします
OFF	ノイズキャンセル機能を OFF にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S12 消音キー

消音キーを押したときの動作を切り換えることができます。

① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S12 消音キー」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

② [◀] または [▶] キーを押して、希望の動作を選択します。

トグル (初期値)	消音キーを押すと音量がゼロになり、もう一度押すとミュートが解除されます。
モーメンタリ	消音キーを押している間だけ音量がゼロになり、キーを放すとミュートが解除されます。

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S13 キーロック

キーロック時にロックするキーを選択することができます。

① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S13 キーロック」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

② [◀] または [▶] キーを押して、希望の動作を設定します。

前面 (初期値)	[機能] キー、[◀] キー、[▶] キー
側面	[PTT] ボタン
前面+側面	[機能] キー、[◀] キー、[▶] キー、[PTT] ボタン

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S14 コード / 宛先表示

ディスプレイ下部に表示される UC コードや宛先の表示のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S14 コード / 宛先表示」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] または [▶] キーを押して、表示のオン / オフを選択します。

ON (初期値)	UC コードや宛先を表示します
OFF	UC コードや宛先を表示しません

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S15 ビープレベル

ビープ音の音量を設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S15 ビープレベル」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、音量を設定します。  
[Lv00 ~ 15 (初期値 08)] ビープ音の音量

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S16 オーディオ出力

受信音やビープ音の音量を、出力先 (本体 / スピーカーマイク / イヤホン) にあわせて、最適になるように切り替えます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S16 オーディオ出力」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、オーディオの出力先を設定します。

内部スピーカー (初期値)	本体スピーカーに最適な音量になります
外部スピーカー	外部スピーカーマイクに最適な音量になります
イヤホン	イヤホンに最適な音量になります

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S17 TX ビープ

自局の送信開始のビープ機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S17 TX ビープ」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを設定します。

オフ (初期値)	自局の送信開始時のビープを OFF にします
オン	自局の送信開始時のビープを ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S18 RX ピープ

相手局の送信終了を知らせるビープ機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S18 RX ピープ」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

オフ (初期値)	相手局の送信終了時のビープを OFF にします
オン	相手局の送信終了時のビープを ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S19 バッテリーセーブ

待ち受け状態で電池の消耗を防ぐバッテリーセーブ (間欠受信) 機能のオン / オフを設定します。

※ この項目は「S01 通信方式」が“UC 通信”、かつ「S08 オート CH」が“OFF”的ときに設定できます。(それ以外の場合はバッテリーセーブ機能は自動的に“OFF”になります。)

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S19 バッテリーセーブ」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

OFF (初期値)	バッテリーセーブ機能を OFF にします
ON	バッテリーセーブ機能を ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S20 弱電界アラーム

受信信号が微弱になったことを知らせるアラーム機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S20 弱電界アラーム」を選択 ➡ [機能] (選択) キー  
② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

OFF (初期値)	弱電界アラーム機能を OFF にします
ON	弱電界アラーム機能を ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S21 電池残量警報

バッテリー残量が少なくなったことを知らせるアラーム機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S21 電池残量警報」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

<b>ON</b> (初期値)	電池残量アラーム機能を ON にします
<b>OFF</b>	電池残量アラーム機能を OFF にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。

その後電源を切ると設定は完了です。

## S22 設定クローン

SR510 同士でトランシーバーの各種設定を電波を使ってクローン (コピー) する機能です。1台から複数の SR510 へ同時に短時間でクローンすることができます。

- ① クローンするすべての SR510 のチャンネルをあらかじめ合わせておきます。クローンするトランシーバー同士は、できるだけ近くに置いて電波を安定して受信できる状態にしてください。混信やノイズの影響を受けている場合は、設定クローンがうまくできないことがあります。

**補足** ○呼出 CH (CH15) および上空 CHS1 ~ CHS5 では、設定クローンを行なうことはできません。他のチャンネルで行ってください。

○クローンされる項目は簡易メニュー (25 ページ参照) とセットモード (31 ページ参照) の一覧を参照してください。

- ② [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➔ [機能] (選択) キー ➔ 「S22 設定クローン」を選択 ➔ [機能] (選択) キー

- ③ [◀] または [▶] キーを押して、1台のみ “送信” を選択、その他は “受信” を選択します。

<b>送信</b>	この無線機の各種設定を送信します
<b>受信</b>	他の無線機から各種設定を受信します

- ④ 受信させる全ての SR510 で [機能] キーを押し “受信中” が点滅している状態にします。

- ⑤ 送信する SR510 で [機能] キーを押し送信にします。(クローンの送信時間は約 2 秒間です)

- ⑥ 正常に受信をした場合は SR510 の画面には “変更しますか？” と表示されます。

変更する場合は [機能] (決定) キーを押します。

キャンセルする場合は [消音] キーを押します。

- ⑦ 送信側の SR510 の電源を切ります。

S22  
設定クローン  
UC 000 送信  
秘話 00001

S22  
設定クローン  
受信

S22  
UC 000  
秘話 00001  
変更しますか？

## S23 コントラスト

ディスプレイ表示のコントラストを調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S23 コントラスト」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、表示のコントラストを調節します。  
[Lv00 ~ 15 (初期値 08)] ディスプレイ表示のコントラスト
- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S24 ディマー

ディスプレイと各キーのバックライトの明るさを調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S24 ディマー」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、バックライトの明るさを調節します。  
[Lv00 ~ 15 (初期値 08)] ディスプレイと各キーのバックライトの明るさ
- ③ [機能] (決定) キーを押します。  
その後電源を切ると設定は完了です。

## S25 設定リセット

無線機のすべての設定を初期値（工場出荷時）に戻します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S25 設定リセット」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
  - ② “設定をリセットしますか？”と表示されます。  
[機能] (決定) キーを押してリセットします。  
キャンセルする場合は [消音] キーを押します。
  - ③ リセットすると “初期化完了”と表示され、すぐにセットモード画面に戻ります。
- S25  
設定リセット  
リセットしますか？  
決定

## S26 CSM

CSM 番号を表示します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S26 CSM」を選択
- ② ディスプレイに CSM が表示されます。（CSM を変更することはできません。）

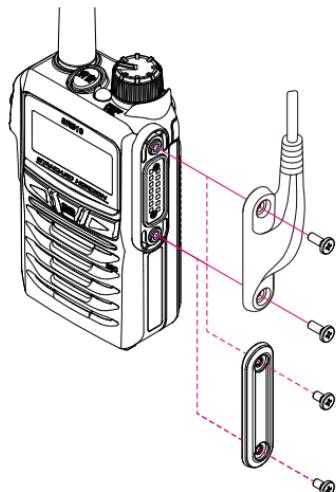
## S27 Serial No.

シリアル番号を表示します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡  
「S27 Serial No.」を選択
- ② ディスプレイにシリアル番号が表示されます。（変更することはできません。）

## オプションの取り付け

- ① ネジを外してアクセサリーコネクタ保護カバーを取り外します。
- ② オプションに付属のネジを使って、オプションを取り付けます。



**注意** オプション類は、トランシーバーの電源を切った状態で取り付けてください。

### 補足

- 取り外したアクセサリーコネクタ保護カバーとネジは、必ず保管しておいてください。
- アクセサリーコネクタやオプションの端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になり正しく使用できなくなることがあります。
- オプションを接続しないときは、アクセサリーコネクタ部分にアクセサリーコネクタ保護カバーを取り付けておいてください。

### ◎外部マイクの感度の調節

セットモードの「S10 外部マイク」(36 ページ参照)で、マイク感度を調節することができます。

### ◎オプション使用時の音量切り替え

セットモードの「S16 オーディオ出力」(36 ページ参照)で、受信音やビープ音の音量を内部スピーカー / 外部スピーカー / イヤホンから選択して、最適な音量に切り替えることができます。

オプションの外部スピーカーマイク接続時に、音量をより大きくするには、“外部スピーカー”に設定します。(低周波出力: 800mW 以上 10% 歪時)

### 注意

オプションのイヤホンを接続する時は、必ず“イヤホン”に設定し、音量を下げてください。

# 故障かなと？と思う前に

間違った操作をしていませんか？修理を依頼される前に、お確かめください。

## ◎ 電源が入らない！

- ・電池パックが消耗していませんか？  
➡ 電池パックを充電してください。
- ・電池パックの端子が接触不良になっていませんか？  
➡ 端子を乾いた布で拭いてください。
- ・電池パックが古くなっていますか？  
➡ 電池パックの寿命です。新しい電池パックとお取り替えください。

## ◎ 送信できない！

- ・PTTスイッチを正しく押していますか？
- ・上空用チャンネルになっていませんか？  
➡ “CHS1”～“CHS5”の上空チャンネルは、受信専用（モニターのみ）で送信することはできません。
- ・ディスプレイに“BUSY”と表示されていますか？  
➡ 基準値以上の強さの電波を受信しているため、混信を防ぐキャリアセンス機能により送信が禁止されています。信号が無くなつたら送信するか、混信のないチャンネルに切り換えてください。

## ◎ 音がでない！

- ・音量が下がっていますか？  
➡ [PWR/VOL] ツマミを 10～11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、[PWR/VOL] ツマミで調節します。
- ・消音（ミュート）機能が「オン」になっていますか？
- ・ディスプレイに“MUTE”と表示されていますか？  
➡ [消音]キーを押して、消音（ミュート）機能を「オフ」にします。

## ◎ 通話できない！

- ・相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- ・相手局との距離が離れすぎていますか？
- ・相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- ・相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- ・秘話通信機能が動作していませんか？  
➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

## ◎ キー操作ができない！

- ・ディスプレイに“”が表示されていますか？  
➡ []キーを長押ししてキーロックを解除してください。

# 定格

## 一般

送受信周波数：	デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、30 波) 351.20000MHz ~ 351.38125MHz 上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、5 波) 351.16875MHz ~ 351.19375MHz (モニターのみ可)
電波型式：	F1C/F1D/F1E/F1F
通信方式：	単信プレストーク式
電池持続時間：	2200mAh リチウムイオン電池パック SBR-19LI 使用時 (2.5W 出力、送信：受信：待受 = 5 : 5 : 90 の割合) セーブ機能オフ時：約 10 時間 セーブ機能オン時：約 13 時間
電源電圧：	DC3.7V ± 10%
温湿度範囲：	温度 -20°C ~ +60°C 湿度 95% (35°C)
本体寸法：	高さ 88mm × 幅 54mm × 奥行き 29.2mm ※突起部を含まず
重量：	約 185g ※ SBR-19LI、アンテナ、アクセサリーコネクタ保護カバーを含む

## 送信部

空中線電力：	2.5W/2.0W/1W (+20%、-50% 以内)
空中線インピーダンス：	50 Ω 不平衡
発振方式：	水晶発振制御による周波数シンセサイザ方式
周波数許容偏差：	± 1.5ppm 以内
変調方式：	4 値 FSK
占有周波数帯域幅：	5.8kHz 以下
最大周波数偏移：	± 1324Hz 以内
隣接チャンネル漏洩電力：	- 52dB 以下 (2.5W 時)
スブリアス発射：	2.5 μ W 以下
不要輻射：	2.5 μ W 以下
標準変調入力：	- 44dBm ± 5dB
変調入力インピーダンス：	600 Ω

## 受信部

受信方式：	ダブルスーパーへテロダイン方式
中間周波数：	第 1: 50.85MHz、第 2: 450kHz
局部発振周波数：	第 1: 受信周波数 -50.85MHz、第 2: 50.4MHz
局発周波数変動：	± 1.5ppm 以内
受信感度：	- 2dB μ V 以下 (BER=1%)
スブリアスレスポンス：	53dB 以上 (BER=1%)
隣接チャンネル選択性：	6.25kHz 42dB 以上 (BER=1%)
相互変調特性：	53dB 以上 (± 12.5kHz、± 25kHz) (BER=1%)
低周波出力：	500mW 以上 (10% 歪時)
低周波出力インピーダンス：	8 Ω
副次的に発する電波等の強度：	4nW 以下

# 索引

記号	機能ボタン.....8	通信方式について.....5
◀ / ▶ ボタン.....8	基本的な使い方.....15	通信方式について.....16
<b>アルファベット</b>		
A	クイックガイド.....1	通話中の「ビビビ」音.....26
ALL.....20, 24, 25	グループ ID リストの設定.....22	ディスプレイ.....9
L	グループ親機.....21	デジタル簡易無線局について.....5
LCD ディスプレイ.....9	グループ親機に設定した場合の グループ呼び出し設定.....23	電界強度表示.....9
LED インジケーター.....8	グループ子機または グループ親機の設定.....22	電池残量表示.....14
P	グループ子機.....21	電池の消耗について.....14
PTT (通話) ボタン.....8, 15	グループ子機に設定した場合の 自グループの設定.....22	電池パック残量表示.....9
PWR/VOL ツマミ.....7	グループ着信割り込み 設定について.....24	電波干渉について.....4
U	グループ呼出.....19, 21	ヒートプロテクション.....26
UC (ユーザーコード) 通信.....17	グループ呼出表示.....10	表示部.....9
UC (ユーザーコード) 通信の設定方法.....18	グループ呼び出しを受けたとき.....24	秘話通信機能.....30
UC (ユーザーコード) 表示.....10	c	秘話表示.....10
かな	構成品.....6	ふ
a	個別通信.....19	不在着信.....24
アクセサリコネクタ端子.....8	個別通信の設定方法.....20	不在表示.....10
宛先メニュー.....20, 23	個別通信の呼び出し方法の設定.....21	へ
アフターサービス.....2	個別呼出.....19, 21	ベルトクリップの取り付け.....11
アルカリ乾電池ケースの使い方.....14	個別呼出表示.....10	ほ
安全上のご注意.....3	個別呼び出しを受けたとき.....24	防水性能について.....4
アンテナコネクター.....7	l	ま
アンテナの取り付け.....11	自グループ.....22	マイク.....8
i	消音機能.....29	み
一斉呼出 (ALL).....10, 20, 24	消音ボタン.....7	ミュート.....29
一斉呼び出し (ALL) を 受けたとき.....25	上空用チャンネルモニター.....5	ゆ
o	上空用チャンネル表示.....10	UC (ユーザーコード) 通信.....17
オーディオ出力.....37	初期化.....40	UC (ユーザーコード) 通信の 設定方法.....18
オートチャンネルモード.....9, 27	せ	UC (ユーザーコード) 表示.....10
オートチャンネルモード の設定方法.....28	設定リセット.....40	よ
オプション.....6	セットモード.....31	呼び出しを受けたとき.....24
オプションの取り付け.....41	セットモードの 基本的な操作方法.....32	り
か	そ	リセット.....40
各種の便利な機能.....27	送信出力設定.....29	リチウムイオン 電池パック.....8, 12, 13, 14
各部の名前と機能.....7	送信出力表示.....9	リチウムイオン電池パックの 充電方法.....13
簡易メニュー.....25, 26	ち	リチウムイオン電池パックを 取り付ける.....12
乾電池ケース.....14	チャンネル構成とコールチャンネル...5	リチウムイオン電池パックを 取り外す.....12
き	こ	れ
キーロック機能.....16	通信時に動作する機能に関して.....26	連続送信時間制限.....15, 26
キーロック表示.....9	通信の設定機能 ～セットモード～.....31	
キーロックボタン.....8		



## **STANDARD HORIZON**

---

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。  
詳しくは下記の URL をご覧ください。

**八重洲無線株式会社**

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル  
電話：03-6711-4055  
URL : <http://www.yaesu.com/jp/>

---



1909F-AC-1  
Printed in China